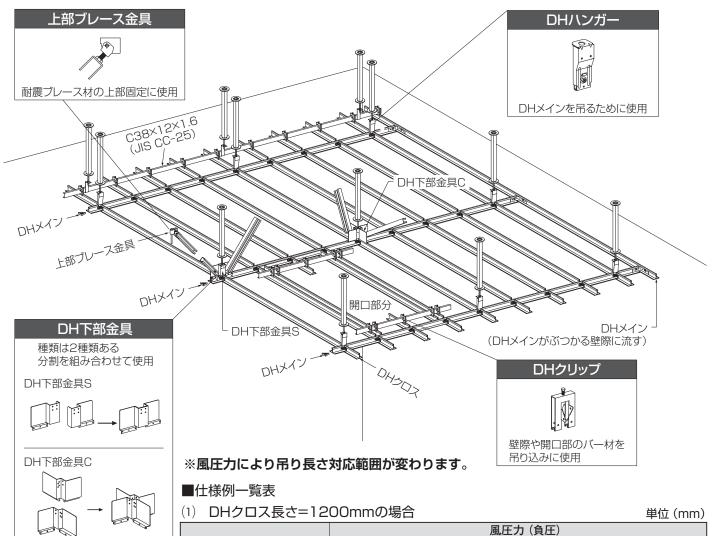
Dalken

ダイケンハイブリッド天井

〈耐震耐風圧仕様〉



下記の二次元コードから 施工説明動画を ご覧いただけます。



DHクロス長さ=900mmの場合

(3/8ボルト+□19×19×1.2)

				風圧刀(貝圧	.)	
		1000Pa (102kgf/m²)	1500Pa (153kgf/m²)	2000Pa (204kgf/m²)	2500Pa (255kgf/m²)	2500Pa超 (255kgf/m ² 超)
インサートピ	ッチ(メイン×クロス方向)	900×900	750×900	600×900	600×900	
軸組(メ	イン×クロス方向)	303.3×900	303.3×900	303.3×900	303.3×900	
吊り長さ	圧縮補強なし (3/8ボルト)	690以下	620以下	600以下	540以下	対応 不可
市り女C	圧縮補強あり	1550以下	1290以下	1030以下	1030以下	

※ケイ酸カルシウム板6mm仕上げ、加算重量1kg/m2の場合を想定しています。 諸条件により対応範囲は変わります。詳細は耐風圧検討書をご確認ください。

		1000Pa (102kgf/m²)	1500Pa (153kgf/m²)	2000Pa (204kgf/m²)	2500Pa (255kgf/m²)	2500Pa超 (255kgf/m ² 超)	
インサートピ	ッチ(メイン×クロス方向)	900×1200	750×1200	600×1200	600×1200		
軸組(メ	イン×クロス方向)	303.3×1200	303.3×1200	303.3×1200	227.5×1200		
吊り長さ	圧縮補強なし (3/8ボルト)	600以下	540以下	520以下	460以下	対応 不可	
可り灰ら	圧縮補強あり (3/8ボルト+□19×19×1.2)	1550以下	1290以下	1030以下	1030以下		
(2) DH	クロス長さ=90	Ommの場合				単位 (mm)	

国正士 (会正)

目 次

		ページ
1.使用材料		
下地材		P3~4
2. 施工フロー:	チャート	P5
3. 施工		
3-1	別途先行工事の確認	P6
3-2	墨出し	P6
3-3	吊りボルト・DHハンガーの取付け	P6
3-4	DHメインおよびDHクロスの取付け	P7
3-5	壁際等周辺部の施工	P8
3-6	レベル・通りの調整	P9
3-7	耐震ブレースの取付け	P9~P10
3-8	開口補強	P11~P12
3-9	検査	P12
〈参考〉	検査チェックリスト	P13
4. 施工上の注意	意事項	P14

1. 使用材料

1-1 下地材

〔本体材料〕

(*****************	部	品	名		部	品	図	入り数	品 番
DUV />:	スロットピ	シチ227.!	5mm	L=3640	14	 B	板厚 t =0.5mm	18本入り	TJA0101-0142
DHメイン	スロットピ	 ゚゚ッチ303.	3mm	L=3639.6		50	1	18本入り	TJA0101-0162
				L=1200	[4]		板厚 t =0.5mm	33本入り	TJA0102-2112
DHクロス				L= 900		50]	33本入り	TJA0102-2212
DHストレー	-トジョイン	k					板厚 t = 1.0mm	120個入り	TJA0201-2
DHクロスシ	ジョイント				0 500	n	板厚 t = 1.0mm	120個入り	TJA0202-2
DHハンガ-	_						板厚 t = 1.6mm	100個入り	TJA0203-2
DHクリップ	•						板厚 t = 1.2mm	100個入り	TJA0204-013
DH爪金具					£10	000	板厚 t = 1.0mm	100個入り	TJA0206-2
CTハンガー	-フリー						板厚 t=1.6mm 	30個	TJB-CTF-2
CTハンガー	-フリー 隙	消間38mr	n				板厚 t = 1.6mm 	30個	TJB-CTF38-2

1. 使用材料 (続き)

〔ブレース関連材料〕

部	品 名	部 品 図	入り数	備考
上 部 ブレース 金 具	タイプA (C40用)	施工可能範囲:30°~60°	_	「NWD C-17HGB」と 「NWD-HG C40」のセット
ブレース材	C40×25×10×1.4	25 10 40	_	_
DH下部	DH下部金具S		15セット 入り	TJA0205-032
金具	DH下部金具C		15セット 入り	TJA0205-042

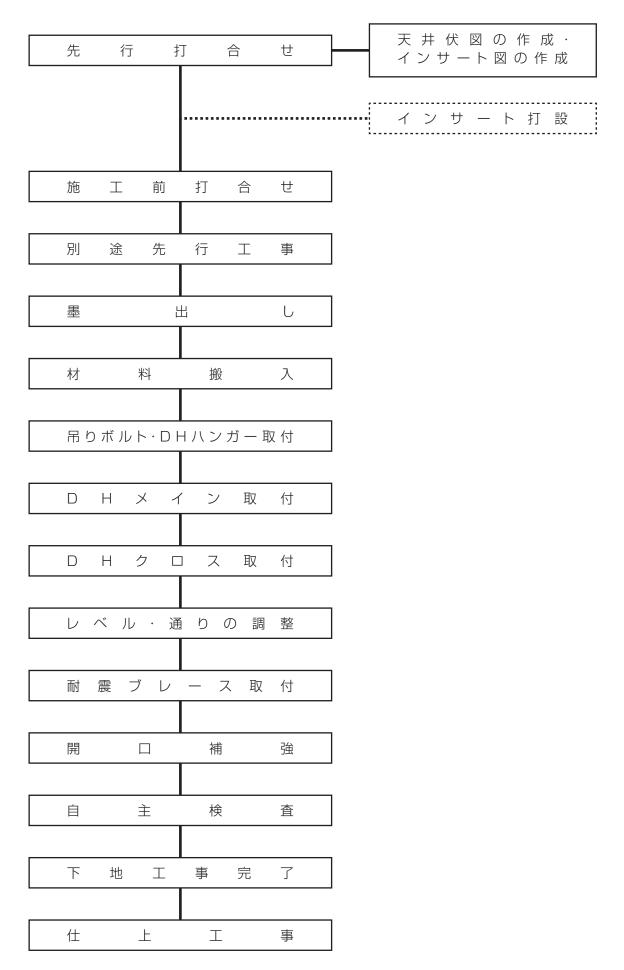
〔圧縮補強材〕

11-11135-1137								
部	品	名	部	品	図	入り数	備	考
圧縮補強材	□19	×19×1.2				_	座金 (外径30m 板厚1.0mm以_	

〔その他〕

部	品	名	部	品	図	入り数		備	考	
ビス	φ4×16			_		_	ドリ	レタッピン	グネジ	なべ頭
	φ5×25			_		_	ドリ	レタッピン	グネジ	六角頭
吊りボルト	· (W3/8)			_		_	_			
ナット				_		_	_			
調整ハンガ	ì—			_		_	壁際問	吊り込み用		
C38×12	×1.6 (JIS	CC-25)		_		_	壁際網	引り込み及る	び開口袖	#強用
マングリン	· ¬		Mサイズ	Lサィ			М	90°用: TJA	40207-	012
│ アングルビ │ Mサイズ:L-		0\6(mm)	90	0	30	00個16	サイズ	90°以外:角	度を指定	Eください
		2010(200)	82.			20個入り	L	90°用:TJA	40207-	022
L リイス・L	00/100/	30^0(IIIII)	ω <u>ε</u> 60	ω <u>-</u> 6			サイズ	90°以外:角	度を指定	Eください
位置決め用	ブレース			_		_	通り7	をとるための	 のブレ-	-スです
チャンネル	キャッチ			_		_	点検[コを固定す?	る金具	

2. 施工フローチャート



3.施工

3-1 別途先行工事の確認

①インサートの位置を確認する。

所定の位置にない場所又は使用できない状態の場合は監督者に報告して打増ししてもらう。母屋吊りの場合は、必要な強度を有する吊り元が確保され、正しい位置にあるかを確認する。

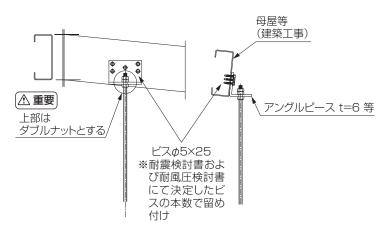
▲ 重要 インサートが所定の位置にない場合、後の工程で不具合が生じる場合がございますので、確実にご確認ください。

②壁面の確認

壁面は天井仕上げ面より100mm程度上方まで 仕上げてあること。

- ③天井内設備工事(ダクト、配管等)が完了のこと。
- ④基準墨(返り墨、陸墨)が出ていること。
- ※耐震検討書および耐風圧検討書にてインサート 荷重等確認してください。

〈母屋吊りの場合の施工例〉

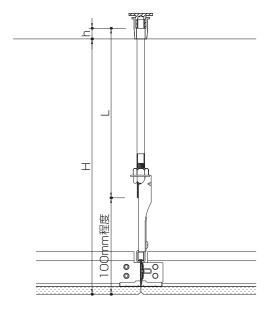


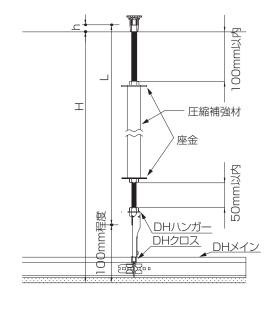
3-2 墨出し

陸墨を基準に天井高さもしくはDHメイン又はDHクロス取付け位置の高さに墨出しを行う。

3-3 吊りボルト・DHハンガーの取付け

- ①インサートの位置が図面通りかを確認する。吊りボルトは3/8ボルトを使用する。
- ②吊りボルトの長さを次のように決める。(左下図参照) L(吊りボルトの長さ) = H - 100 + h
- ③DHハンガーをあらかじめ吊りボルトにセットし、セットした吊りボルトをインサートに完全にねじ込み、吊りボルトは垂直になるように修正します。
- ※吊ボルトの圧縮補強を行う場合は指定の角パイプを通し、指定の座金にて固定する。





3-4 DHメインおよびDHクロスの取付け

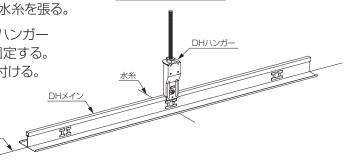
①DHメインの取付け

・基準とするDHメイン及びDHクロスの取付け位置に水糸を張る。

・天井伏図を確認の上、あらかじめ取付けてあるDHハンガー にDHメインを、張ってある水糸に添わせた位置で固定する。 その際にDHクロスの差込位置も水糸に合わせて取付ける。

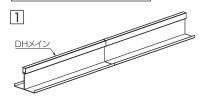
・DHメインの直線接続はDHストレートジョイ ントにて接続する。

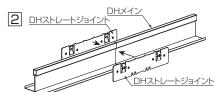
DHストレートジョイントは1ヶ所で2枚使用し、 ビス(*φ*4×16)4本で固定する。

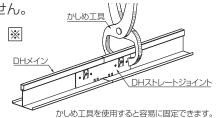


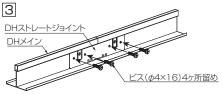
DHメインの設置

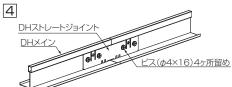
DHメインのジョイント ※ジョイントの位置を千鳥状に配置する必要はありません。







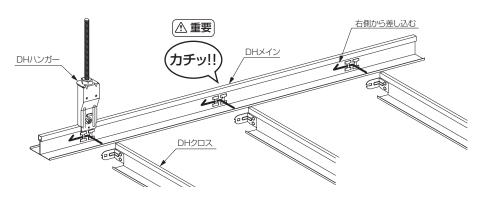




②DHクロスの取付け

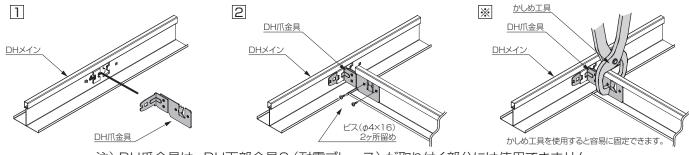
DHクロスをDHメインの差込口 に合わせてカチッと音がするま で差込み固定する。

〈カチッと音がなります。〉



※DHメインが規定の配置間隔になく通常のDHクロスが使用できなくなった場合

- ・DH爪金具をDHメインの差し込み口にカチッと音がするまで差し込み固定する。
- ・DHメインの間隔に合わせDHクロスの片側を切断する。
- ・DHクロスの切断していない側は通常と同様にDHメインに差し込み、切断した側はあらかじめ取り付けてあるDH 爪金具に添わせビス(ϕ 4×16)2本で固定する。



注) DH爪金具は、DH下部金具C (耐震ブレース) が取り付く部分には使用できません。

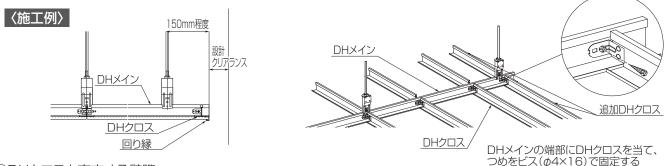
3. 施工(続き)

3-5 壁際等周辺部の施工

- ※壁際のクリアランスの有無は耐震検討書を確認し、使用する廻り縁、金具等の詳細は各現場にて打合せのこと
- ※壁際のクリアランスにおいては、天井材の耐食性などを考慮した適切な処理を行ってください

①DHメインと直交する壁際

仕上げ材を留付けるための下地としてDHクロスをDHメインの端部の間に入れDHメインとDHクロスのつめをビス(ϕ 4×16)で固定する。壁から150mm程度に、DHメインをDHハンガーにて吊り込みする。



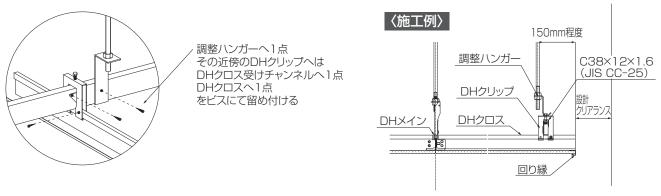
②DHクロスと直交する壁際

壁際のDHクロスを、壁から150mm程度に、DHクロス受けチャンネル(C38×12×1.6(JIS CC-25))を流して、DHクリップにて全て吊り込みする。

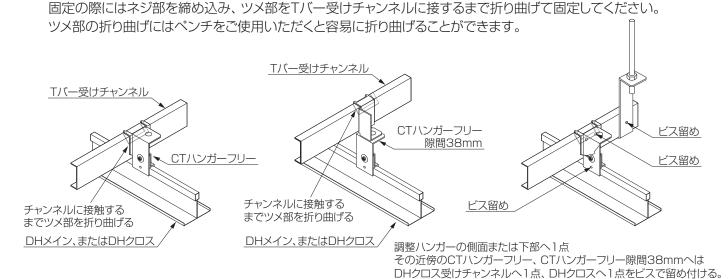
調整ハンガーとDHクロス受けチャンネルは、ビス(φ4×16)1ヶ所で全数留めつけする。

その近傍のDHクリップについて、DHクロス受けチャンネル側、DHクロス側にそれぞれ1ヶ所合計2ヶ所ビス留めする。(インサートピッチにてビス留め)

チャンネルの直線接続は、チャンネルジョイントを使用しビス (ϕ 4×16) 4本で固定する。

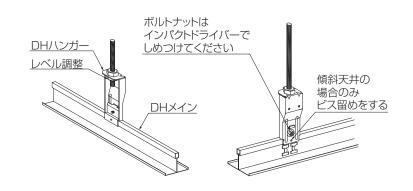


**DHメイン、DHクロスに対して斜めに配置されている壁の壁際については、CTハンガーフリー、またはCTハンガーフリー隙間38mmをご使用ください。



3-6 レベル・通りの調整

- ①DHメイン、吊りボルト下部のDHハンガーのナット によってレベル調整を行う。
- ②DHクロスと直交する壁際等端部のレベル調整は、DHクロス受けチャンネル (C38×12×1.6 (JIS CC-25)) に取付けてある吊りボルト下部の調整 ハンガーのナットによって行う。
- ※位置決めブレース等を用意しておくと便利です。



3-7 耐震ブレースの取り付け

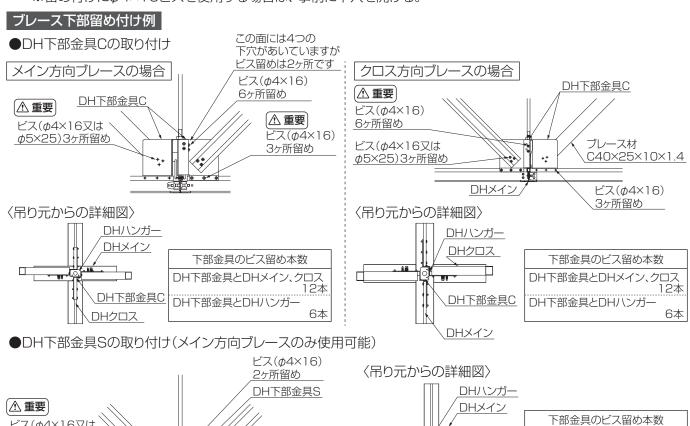
ビス(φ4×16又は φ5×25)3ヶ所留め

この面には4つの

下穴があいていますが ビス留めは2ヶ所です

耐震ブレースは施工図に従い、所定の位置に必要組数設置する。(現場ごとに取り決める)

- ※ブレース位置を変更する必要がある場合は、監理者・設計者の指示に基づいて、他に移動して設置してください。
- ①DH下部金具(CまたはS)をDHハンガー、DHメイン及びDHクロスにビスで固定する。 固定箇所は、【ブレース下部留め付け例】を参照すること。
- ※DH下部金具Cを設置するDHハンガーが軸組の交点にない場合、次頁【交点ずれ補強】を参照すること。
- ②上部ブレース金具a部をブレース材端部にビスで固定する。固定箇所は【ブレース上部留め付け例】を参照すること。
- ③所定の吊りボルトに上部ブレース金具b部を沿え、a部と接続する。(付属のボルトナットを軽く締め込み、a部とb部を接続する。)
- ④上部ブレース金具を隙間のないよう上まで押し上げ、ブレース材を右回りにねじり回転させることでブレース上部を固定する。
- ⑤ブレース材下端をDH下部金具 (CまたはS) に合わせてからビスで固定する。 ※留め付けにφ4×16ビスを使用する場合は、事前に下穴を開ける。



ビス(φ4×16)

3ヶ所留め

6本

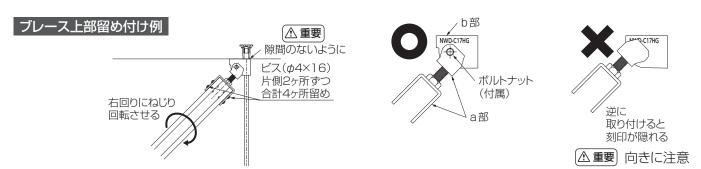
DH下部金具SとDHメインビス

DH下部金具SとDHハンガ

DH下部金具S

DHクロス

3. 施工(続き)



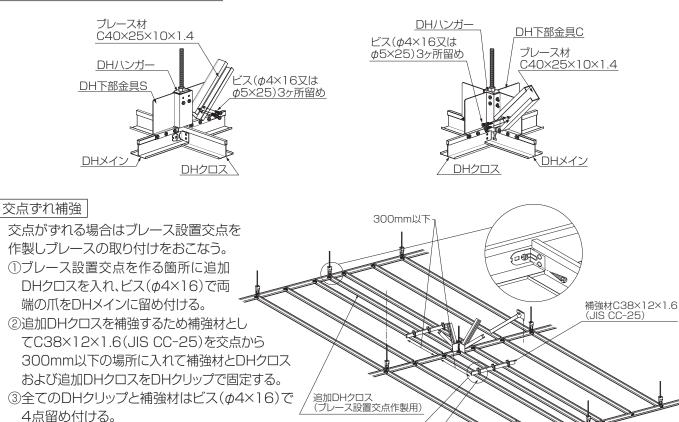
▲重要 吊ボルト上端に複数の上部ブレース金具を設置してはいけません。

▲ 重要 吊ボルトを高ナット等で接続する場合、上部ブレース金具は高ナットより上に設置して押し上げてください。

DH下部金具とブレース材の取り合い

④作製したブレース設置交点に下部金具を取り付

け、ブレースを取り付ける。



/ DHクリップ ビス(φ4×16)4ヶ所留め

開口補強 3-8

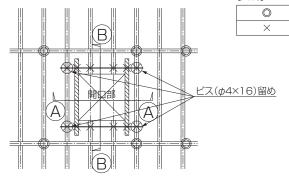
※開口部に伴うクリアランスにおいては天井に耐食性などを考慮した適切な処理を行ってください。

DHハンガー

DHクリップ

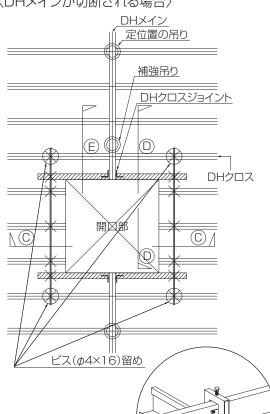
〈DHメインが切断されない場合〉

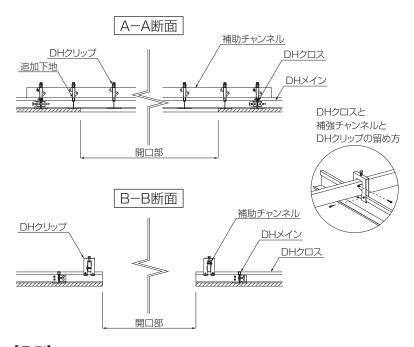




- ①開口をあける部分のDHクロス上に補助チ ャンネル(C38×12×1.6(JIS CC-25)) を通し、DHクリップで固定する。
- ②四隅のDHクリップはビス(ø4×16)で補 助チャンネルに1ヶ所、DHクロスに1ヶ所、 合計2ヶ所留付ける。
- ③追加下地(DHメインもしくはDHクロス)を 追加チャンネルとDHクリップで固定する。
- ④チップソーカッター等の工具で開口部の DHクロスを切断する。

〈DHメインが切断される場合〉





__ 補助チャンネル

追加下地

·

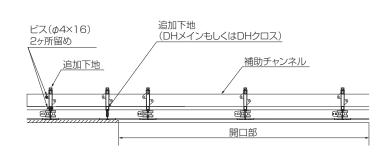
【凡.例】

	DHハンガー		補助チャンネル
×	DHクリップ	<i>(111111111</i>)	追加下地

- ①開口をあける部分のDHクロス上に補助チャンネル(C38×12×1.6) (JIS CC-25))を通し、DHクリップで固定する。
- ②四隅のDHクリップはビス(ø4×16)で補助チャンネルに1ヶ所、 DHクロスに1ヶ所、合計2ヶ所留め付ける。
- ③チップソーカッター等の工具で開口部のDHメインとDHクロスを 切断する。DHメインの跳ね出しは150mm以内とし、超える場合 は後打ちアンカー等で増し吊りする。
- ④追加下地(DHメインもしくはDHクロス)を補助チャンネルとDH クリップで固定する。
- ⑤切断されたDHメインと追加下地の爪をビス(ø4×16)で固定、 または、DHクロスジョイントを使用しビス(ø4×16)6本で固定 する。
- ※補助チャンネルの増し吊りが必要となる場合があります。別途ご 相談ください。

DHクリップのビス留め箇所は補助チャンネル側、DHクロス側に それぞれ1ヶ所合計2ヶ所ビス(ϕ 4×16)留めする。

3. 施工(続き)



D-D断面

後打ちアンカー

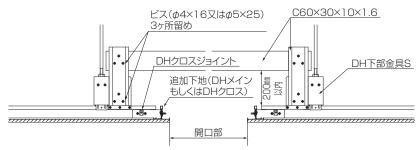
150mm程度 _

(DHメインもしくは

開口部

DHクロス)

ブレース設置のDHメインを切断する場合のブリッジ設置例下部金具とC60の留め付けにφ4×16を使用する場合は、下穴を開けてから固定する。



3-9 検 査

DHクロスジョイント

DHクロス

次ページの検査チェックリストにより検査を行う。

【 検査チェックリスト 】 DalKEN ダイケンハイブリッド天井

施工会社名 建設会社名

部屋名

物件名

検査者

皿

現場代理人 品質責任者 卅

Foreign							
(こ2015年2年7月 17年7月 17年7日 17年	検査部位	判定基準	検査 日付	判定 (〇・×)	是正箇所	是正確認日	備考
####################################	施工部材	φ5×25,	\			\	
PONS		■風圧検討書および耐震検討書記載の必要性能同等以上の吊り元(インサート・金具)が設置されているか	\			\	耐風圧検討書および 耐震検討書参照
1444-24.0 DH40120mRFTD 501/4814 DT4314 18 0 month CPC 5 C1430	吊元 (インサート)	× 程度、	\			\	施工図参照
4.7 = PK - 1 - PK - PK		DHメイン、DHクロスの吊元からのハネ出し寸法は150mm以内となっているか	\			\	耐震検討書参照
####################################	= 1: 2: 0:	3/8ボルトが使用されているか	\			\	
####################################	7.30V.0E	インサートへきちんとねじ込まれているか	\			\	
1		適正部材 (ロ19×19×12) を使用しているか	\			\	
####################################	田 報補強を行う場合		\			\	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		吊术儿下露出長さは適切か(上部100mm以内、下部50mm以内)	\			/	
####################################		吊のボルト、DHメインときちんと固定されているか	/			/	
PHXインを繋ぐたbのDHXTレートショインドは1ヶ所に2枚毎日、と3面64ヶ所されているか 7 7 7 7 7 7 7 7 7) }]	所定の位置に施工されているか	/			/	施工図参照
Photoneiconcentrole (後し込まれている) か mm m	\ \ \ \	ピス留め4ヶ所され	/			/	
PHDコスとッチは適切が		(差し込まれている)	/			/	施工図参照
####################################	DHOOZ		/			/	
Autority (1.5) 利用		(調整ハンガーに1ヶ所、調整ハンガー近傍のDHクリップからDHクロス、C38へ各1	/			/	
AYTORIDING COMBINE CONTINUENCE LINE OF A THE		適正部材を使用しているか	/			/	
上部プレース会員とのピス4ヶ所留めされているか / 同日の四端においているか / 日本のプレース会員と3ヶ所ピス個かされているか / 日本のプレース会員と3ヶ所ピス個かされているか / 日本のプレース会員と3ヶ所ピス個かされているか / 日本のプレース会員と3ヶ所ピス個かされているか / 日本のプレース会員と3ヶ所ピス個かされているか / 日本のプレース会員と3ヶ所となどのご覧がなれているか / 日本のプレース会員のないように施工されているか / 日本のプレークロスが確認すたいるか / 日本のプレークロスが確認すたいるか / 日本のプレークロスが確認すたいるか / 日本の公職に使用するロインが確認すたいるか / 日本の公職に使用するロインが回覧されているか / 日本の公職を対しいるの関係に使用するロインが回覧されている場合、またいるか / 日本の公職を対しているのHメインが回覧されている場合、アリッジ等で連絡しているか / 日本の公職を対しているのHメインが回覧されている場合、アリッジ等で連絡しているの / 日本の公職を対しているのHメインが回覧されているの場合、アリッジ等で連絡しているの / 日本の公職のよれでいるのHメインが回覧されているの場合、アリッジ等で連絡しているの / 日本の公職を対しているのHメインが回覧されているのHメインが回覧されているの場合、アリッジ等で連絡しているの / 日本の公職を対しているのよりによるの	, ,	()	/			/	耐震検討書参照 施工図参照
F部プレーズ金真と3ヶ所七7畳のされているか / PRIプレーズ金真と3ヶ所七7畳のされているか / PRIプレーズ金真と3ヶ所七7畳のされているか / PRIプレーズを開か、たいでとこも)を使用し、交点から300mm程度の位置に設置されているか / PRIプレーズを開かる では、12 CC-2も)を使用し、交点から300mm程度の位置に設置されているか / PRIプレーズを開めているか / PRIプレーズを開めないているか / PRIプレーズを受け中のコスト選のされているか / PRIプレーズを受け中のコスト選のされているか / PRIプレーズを受け中のコスト選のされているか / PRIプレーズを受け中のコスト選をされているか / PRIプレーズを受け中のコスト選のではたいるか / PRIプレーズが配置を付けいずけはているか / PRIプレーズが配置されているか / PRIプレーズが配置を付けいずけはているのはまれているが / PRIプレーズが配置されているのはまれている場合ではある。フリッシ等で建設しているか / PRIプレーズが配置されているのはメインが回避されている場合ではある。フリッシ等で連絡しているか / PRIプレーズが配置されているのはメインが回避されている場合ではある。フリッシ等で連絡しているか / PRIプレーズが配置されているのはメインが回避されているのはメインが配置されているのはメインが配置されているのはメインが配置されているのは、インがでは、インがで	, , ,	上部ブレース金具とのビス4ヶ所留めされているか	/			/	
会点部に追加したDHクロスの両端部がDHメインにとス留めされているかの場合 の場合 本点が設置されているか 下部金真S (2ヶ所) 下部金真S (2ヶ所) 下部金真C 下部金真C での所) 下部金真C 下部金真S (2ヶ所) 下部金真C 下部金真S (2ヶ所) 下部金真C 下部金真S (2ヶ所) 下部金真C をいたの所 下部金真C をいたのでによっているか 下部金真C をいたのでによっているか 下部金真C をいたのでによっているか 下部金真C をいたのでによっているか 下部金真C をいたのでによったいるか 下部金真C をいたのでによったいるか 上のいるのによったいるか 上のいるのによったいるが 上のいるのによったいるか 上のいるのによっ		下部ブレース金具と3ヶ所ピス留めされているか	/			/	
交点カン の場合 (自産材は C38×12×1.6 (J1S CC-25) を使用し、交点から300mm程度の位置に設置されているが (自力ソンプは全てビス留め (各4ヵ所) されているか 下部金具S (2ヵ所) 下部金具S (2ヵ所) 下部金具C (2ヵ所) でいるがとスがの断されているか 下部金具C (2ヵ所) 下部金具C (2ヵ所) 下部金具C (2ヵ所) 下部金具C (2ヵ所) アンイン及びDHクロスが補助チャンネルとDHクリップで固定されているか 下部金属C (2ヵ所) 下部金具C (2ヵ所) でいるでは、2ヵmm に使用するDHクリップはビス留め (各2ヵ所) されているか アンインが設置されているのトメインが切断されている場合、フリッジ等で連絡しているか			/			/	
金具 DHクリップは全てピス留め (各4ヵ所) されているか 金具 スラブ等に隙間のないように施工されているか 下部金具S (2ヵ所) 下部金具S (2ヵ所) 下部金具C (6ヵ所) 上部金具C (6ヵ所) 上部金属C (6ヵ所) <td>交点ズーの場合</td> <td>補強材は C38×12×1.6 (JIS CC-25) を使用し、交点から300mm程度の位置</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td>/</td> <td></td>	交点ズーの場合	補強材は C38×12×1.6 (JIS CC-25) を使用し、交点から300mm程度の位置	/			/	
金美 スラブ等に隙間のないように施工されているか 下部金真S (2ヶ所) 下部金真S (2ヶ所) 下部金真C (3ヶ所) 上の金真C (3ヶ所) 上の金真C (3ヶ所) 上の金真C (3ヶ所) 上の金責C (3ヶ所) 上の金費C (3ヶ所)		DHクリップは全てピス留め(各4ヶ所)されているか	/			/	
DH/IVンガーへ適切なピス留めされているか 下部金具S (2ヶ所) 下部金具S (6ヶ所) 下部金具C 下部金具S (6ヶ所) 下部金具C 下部金具C 下部金具C を 所入 閉口により切断されたDHクロスが補助チャンネルとDHクリップで固定されているか 関口の四隅に使用するDHクリップはピス留め (82ヶ所) されているか アルースが設置されているDHメインが切断されている場合、ブリッジ等で連結しているか アルースが設置されているDHメインが切断されている場合、ブリッジ等で連結しているか	上部プレース金具	スラブ等に隙間のないように施工されているか	/			/	
DHメイン及びDHクロスへ適切なピス留めされているか 下部金具S (6ヶ所) 下部金具C 関ロにより切断されたDHクロスが補助チャンネルとDHクリップで固定されているか 関ロの四隅に使用するDHクリップはビス留め(各2ヶ所)されているか フレースが設置されているDHメインが切断されている場合、ブリッツ等で連結しているか	□	下部金具S(2ヶ所)	/			/	
		下部金具S(6ヶ所) 下部金具C	/			/	
•		開口により切断されたDHクロスが補助チャンネルとDHクリップで固定されているか	/			/	
ブレースが設置されているDHメインが切断されている場合、ブリッツ等で連結しているか	開口補強	関ロの四隅に使用するDHクリップはビス留め(各2ヶ所)されているか	\			\	
		ブレースが設置されているDHメインが切断されている場合、ブリッジ等で連結しているか	\			\	

4. 施工上の注意事項

ダイケンハイブリッド天井をご採用いただきましてありがとうございます。

この説明書には施工上の重要な項目が記載されています。本製品を長期間美しくかつ安全にお施主様に使用していただける よう、またトラブルのない確実な施工をしていただくためにも施工前に良くお読みいただき、以下のことを必ずお守りください。



施工上の禁止事項

ケガや事故防止のため、以下のことを必ずお守りください。

- ●天井に乗ったり、ぶら下がったりすると落下、脱落によりケガをすることがあります。 (危険な行為はしないでください。)
- ●天井から物を吊るしたり、物を載せたりすると落下や脱落によりケガや、天井周辺を破損することがあります。 (所定の強度を有する構造にしてください。)

施工上の必須事項

施工のばらつきがないよう次の事項を必ずおこなってください。

- ●下地材のく(躯)体への取付けやインサートとの接合は確実に堅ろうに行ってください。
- ●配管、空調ダクト、空調機器、照明機具等と下地材とは、基本的に、それぞれ独立して取付けを行ってください。
- ●下地材の部材接合部のボルト、ナット、ビスおよび固定金物などは確実に固定してください。
- ●水平精度は、仕上げ材の施工に支障とならないよう適切に行ってください。



施工上の注意事項

搬入時や保管時について次のような事項に注意してください。

- ●搬入時、資材の落下やずり落ちによるケガを防ぎ、腰を痛めないようにしてください。 (現場での小運搬は無理のないようにご注意ください。)
- ●原則として、屋内の湿気の少ない場所に保管してください。 (やむを得ず屋外に置く場合には、雨水等がかからないよう、確実な養生をしてください。)
- ●製品は地面に直接置かず、水平なところに保管してください。積み重ねる場合は、局部荷重がかからないよう養生をして荷 崩れを起こさないように保管してください。
- ●クレーン荷揚げ等の運搬に関しては、布製平型吊りバンドを使用するなど、製品の角や表面の損傷に注意してください。ま た、製品の上に重いものを乗せないでください。

取り扱い時について次のような事項に注意してください。

- ●鋼材の先端は鋭利です。特に切断面は、手を傷つけやすいため、必ず軍手等の保護手袋を着用してください。
- ●素肌の露出はケガをする恐れがありますので、素肌を露出しない服装で作業してください。

お問い合わせは

設計事務所様

東京 TEL 03-6271-7767

Ш TEL 086-262-5601

建設会社様

東京 TEL 03-6271-7766 名古屋 TEL 052-205-5160 大 阪 TEL 06-6205-7272

福 岡 TEL 092-235-0123

受付時間:平日9:00~17:30

(土・日・祝日・年末年始・お盆は休みとなります。)

大建丁業株式会社

DAIKEN のホームページアドレス https://www.daiken.jp/

240921-D0-49S